



青葉区民会議



2012年2月発行

# 青葉区民会議ニュース

36号

発行 青葉区民会議

事務局 〒225-0024 横浜市青葉区市ケ尾町31-4 青葉区役所区政推進課広報相談係内

Tel:045-978-2221 Fax:045-978-2411 Email:mail@aobakuminkaigi.com

URL:http://www.aobakuminkaigi.com/ または「青葉区民会議」で検索

入手先：青葉区役所、地区センター、ケアプラザ、区民活動支援センター、図書館、区民利用施設など

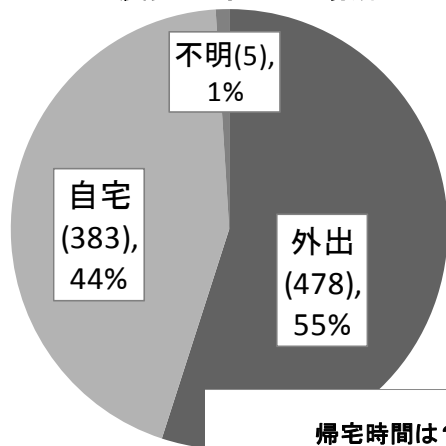
青葉区民会議

検索

## 青葉区の3.11 あなたはその時!? 震災1000人アンケート

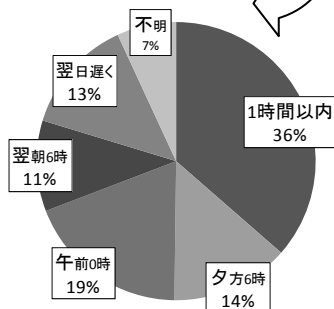
平成23年3月11日午後2時46分東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）が発生しました。比較的 safety 地帯だと思われていた青葉区内でも震度5弱（一部では5強）が観測されました。青葉区民会議は、その時青葉区民がどのような行動をとったのかについてアンケート調査（回収982人うち青葉区866人）を行いました。ご協力ありがとうございました。以下概要を報告します。いつまた起きるか分からない大地震に備えるため、区民のアンケートの結果をもとに、横浜市や青葉区の防災計画への提言を行っていきます。

### 地震発生時にいた場所は？

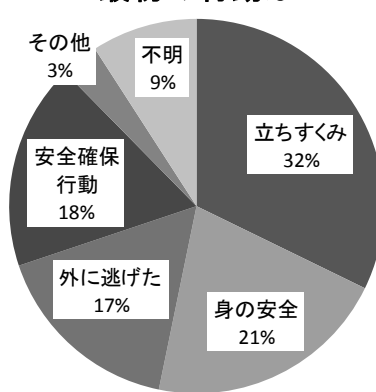


●青葉区民への「地震発生時にどこにいましたか」の質問に、外出が約55%でした。外出者で1時間以内の帰宅は36%。翌日になった人が約25%もいます。また、全回答者982人の「その時欲しかった情報」の1位が交通情報だったことや、「1時間以内に行った行動」の1位が情報収集、2位に家族の安否確認であることから、①帰宅困難者対策、②家族間での安否確認システム、③留守宅対策の3つの対応が必要であることが分かります。

### 帰宅時間は？



### 最初の行動は？



●「最初に行った行動は」  
1位一動かずにその場に立ちすくんだ  
2位一身の安全を図る  
3位一外に逃げた  
専門家からは「身の安全」や「安全確保行動」が優先と指摘されています。青葉区防災計画の中での、今後の対策の検討が待たれます。

## 防災のつどい

参加自由



青葉区にも災害はやってきます。備えは盤石ですか。

3.11の経験を生かし「私たちの減災は？」を考えるつどいを開催します。

日時：3月24日（土）1時半～4時半

会場：青葉区役所 4階会議室

内容：震災アンケート報告 地域の方たちの3.11以降の取組とパネルディスカッション

コーディネータ：佐藤榮一さん（消防庁消防大学校講師）

ぜひご参加ください

回覧

承認  
区連会第16号

発行：青葉区民会議

# 震災アンケートの中から

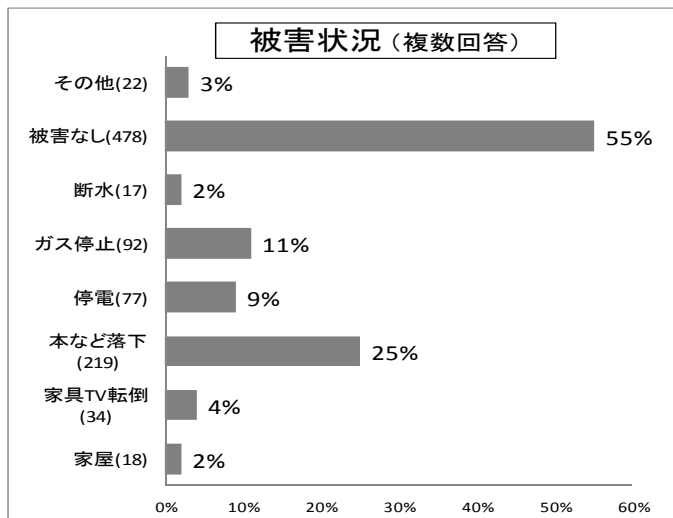
## ●ご近所の助け合いは、日頃の心構えと実際の行動が重要

(自宅にいた人383人)

近所に声掛けを	日頃の対策 隣近所の助け合い	割合
した 83人	36人	43%
しなかった 300人	19人	6%

震災時自宅にいた人383人のうち、地震がおさまって1時間以内に行った行動の中で、隣近所へ声掛けを行った方は83人でした。その内「隣近所との声掛け助け合い」を日頃の対策として行っていた人は36人いました。この割合は当日声掛けをしなかった人と比べると非常に多く、共助の姿勢の高い人が災害時にも声掛けとして表れることが分かります。

## ●被害の状況は 青葉区の特徴は？



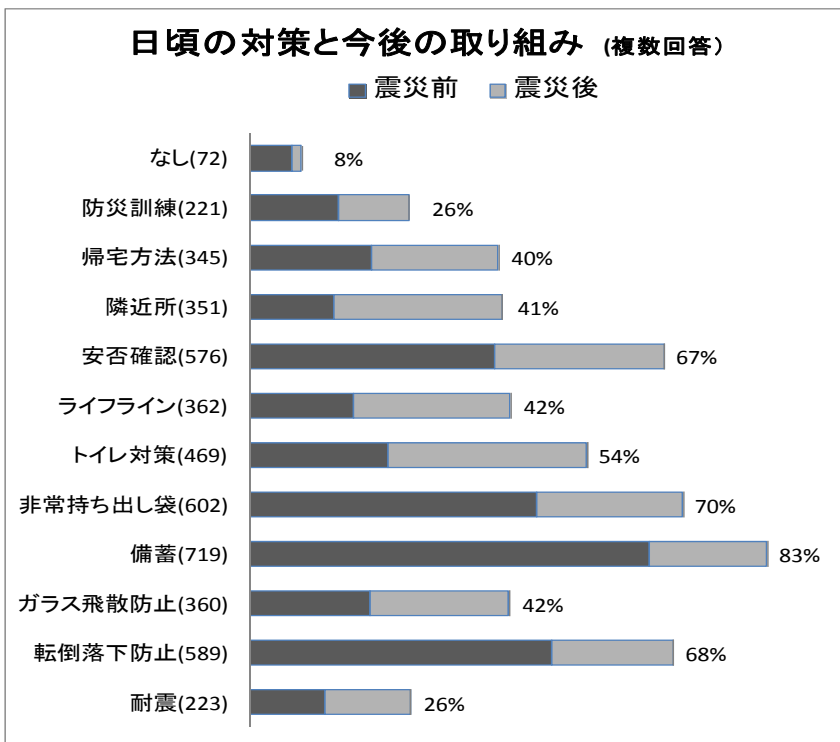
青葉区回答(866人)の55%が被害なしと回答。本や食器などの落下が25% 家具やテレビなどの転倒と合わせると3割近くの屋内被害があります。家具転倒や本などの落下については、一戸建てと比較して、集合住宅の方が若干多めになっています。中にはピアノが1メートル近く移動したというコメントもありました。

しかし、青葉区役所へは屋根の瓦の落下や壁の落下などの物的被害として11件の報告がありました。アンケートでは、家屋の損傷は18件(2%)ありました。

青葉区の住宅は30年を越す古いものが少なく建物被害は少なかったようです。しかし、屋内での被害については高齢者や子どもたちへの危険回避という点でもさらに対策が必要だと思われます。

## ●日頃の対策と今後の取組

震災前に対策をされていた方に、震災後それまでしていなかったが新たに対策を始めた方を加えました。隣近所の助け合いやトイレ対策を始める人が多いです。しかし、予測されている南関東地震や東京直下型地震では、被害は数十倍にもなります。耐震対策もまだまだ低いです。このような対策で良いのか心配です。



### 《100近い自由意見の中から》

●毎年9月の防災の日だけでなく、常日頃から、緊急時の連絡方法の取り方の実践や避難場所の確認をしておく必要があると思う。主人とは、「妻(夫)を助けに行こう」ではなく、まずは自分と子どもの安全を最優先することを約束し、もし妻(夫)と別行動していても、それぞれがその場で自身の安全を確保することが大事だと確認しあっている。

●子ども(小6)が社会科見学で上野に行き、帰りの電車で地震発生。班ごとで分かれて散らばっていたのを先生方が探し出し、近くの小学校で避難。炊き出しも受け、当夜バスをチャーターして、翌朝早くに戻った。連絡が殆ど取れず心配だった。ただ、先生方、上野の小学校のPTAのお母様がた沢山の方にお世話になり、無事帰れました。感謝したいと思います。

●地域の連携は、大切なことだが、訓練でどうにかなることとならないことがあるのではないか。個人の危機管理意識と日頃の近所づきあいなど、基本的な意識の啓発が大切なのではないだろうか。自治会が何かしてくれるはず、避難場所に行けば市や県が何かしてくれるはず、といった程度では対処しきれないのでは？

## 3つの部会の活動紹介

### 健康・福祉・教育部会

健康づくり、福祉問題（高齢者福祉、障害者福祉）、教育問題（子育て、学校教育、食育）と幅広い分野を対象にしています

#### <活動内容>

- ・テーマ毎の各種勉強会
- ・さまざまなデータの収集と分析
- ・住民の意識調査や考え方の把握のためアンケート実施
- ・問題点の把握や実態調査のため施設見学の実施
- ・区民まつりで青葉区「介護施設マップ・一覧表」を掲示し冊子を配布
- ・随時改訂版を作成し、内容の充実を図ります。
- ・福祉人材（介護職員やヘルパー）の処遇改善は喫緊の課題です。

これを最大のテーマとして横浜市への提言・要望を行っていきます。



11月3日青葉区民まつり会場

### 自然・環境部会

自然・環境部会は、青葉区の自然や社会環境の保全を目的に、月1回の勉強会と年数回の調査観察活動を行っています。また、青葉区や横浜市との意見交換会や区民アンケートを行い、青葉区や横浜市に提言を行っています。

「勉強会」勉強会では部会委員20名が個々にテーマを持ち、順次発表と意見交換をおこなっています。最近のテーマは「街の花壇・フラワーロード」「みどりアップ計画市民推進会議」「青葉区ビューポイント（青葉百景）」「子どもたちが集まりやすい水辺」「電気エネルギーの地産地消」などです。



「調査観察活動」調査観察活動では昨年12月に奈良・恩田地区の市街化調整区域の開発状況を調査しました。その中で、奈良しぜん緑地の奈良熊ヶ谷小川アメニティーや恩田の源流の森などの自然環境を満喫しました。



### 安全・安心まちづくり部会

安全で安心なまちづくりを目指し、防災（減災）、防犯、交通や都市計画などについて施策提案を行います。多くの区民意見を反映するためにアンケート実施や公開勉強会など市政区政参加の場を提供します。

3月11日の東日本大震災の経験をふまえ、青葉区民へ震災アンケートを実施しました。（1-2ページに要点を報告しています）。また「青葉区にとって今必要な防災（減災）」について専門の方を講師に勉強会を重ねています。いつからでも区民会議には参加できますので、まず勉強会で一緒に考えてみませんか？

10月 図上防災訓練（DIG = Disaster Image Game） - 青葉消防署 係長他

11月 視環境ユニバーサルデザイン - 原利明さん（鹿島建設）

12月 災害時給水体制について - 井田係長（横浜市水道局）

〃 避難所運営ゲーム（HUG） - 佐藤栄一さん（消防庁消防大学校講師）

1月 避難所生活ルールづくり - 平田京子さん（日本女子大准教授）



平田研究室から女子学生の参加もあり、実例に基づいたさまざまな避難所生活でのトラブルを回避するルール作りゲームにチャレンジしました。



DIGでわいわい



水道の話

## 岡田青葉区長に聞く「住み続けたいまち 青葉」とは

横浜市ではまちづくりの基盤となる都市計画マスタープランの改定を行っている最中です。24年度に市民意見を聞き(パブリックコメント)改定されます。その後、区ごとの見直しが始まる予定です。青葉区民会議では、区民意見を集め12項目にわたる提案書「すべての世代が住み続けたいまち 青葉」にまとめ、昨年12月に提出しました。その際、岡田区長、堀江副区長、上野区政推進課長、小笠原区政推進課担当課長と懇談の機会がありましたので、区長をはじめとする青葉区役所の意見をご紹介します。



### 提案内容全体について

- ・基本的にはまちづくりの考え方の方向性は青葉区役所と同じだと感じました。青葉区民は「まちを作るのは自分たちだ」という意識が非常に高いのだと感心しました。区民会議としてもこの姿勢で、まちづくりに関わり続けて欲しいと思います。

### 今という時代は「まちづくり」にとって～行政のできること、市民ができることとは？～

- ・かつての様に財政が右肩上がりの時代ではなく、必要だからとんでも作れる時代ではありません。まちをこう作りたく願う人と行政は何をやっていくのか、行政として「選択と集中」そしてそれに対する支援がベースになる時代です。どのように持続可能なまちづくりを実現するのか、仕組みづくりと互いの役割が求められています。

### ハード中心からソフトも重視した都市計画マスタープランとは？

- ・まちづくりは当然ハード面が基盤となりますが、なぜそれが必要なのか？誰がどのように有効的に効率よく使うのかといったソフト面がこれからは重要になります。例えば子育てのためのまちづくりや高齢者にとって必要な環境など今回の区民会議の提案は幅広い提案内容となっており、区プラン改定に際しても幅広い視点での見直しが必要だと感じました。

### 個別のテーマについて

- ・子育て環境について一待機児童問題に関しては市も積極的に取り組んでいます。青葉区の特徴でもある家庭保育への支援にも触れており今後のテーマだと感じました。また乳幼児が遊べる施設への支援は必要だと思います。
- ・高齢化とまちづくりについて一今後広がるであろう交通不便地でのスムーズな買物、通院などの検討が必要です。事業者と地域が連携し、行政が間で解決策を提案するのが良いのかな、と思いました。



- ・公園利用について一地域で公園を多世代交流の場などとして活用するのは良い方法と思いますが、現状はいろいろな規制があります。まちづくりを地域で進めるにも、規制緩和も含め行政ができる役割を考えたいですね。

- ・緑について一緑被率と緑視率を合わせて緑を維持する考えは良いと思います。街路樹が青葉区の特徴であり魅力であることは同感です。維持管理に課題の多い街路樹保全ですが住人同士が対立するのではなく地域が協力しあって守る意識をもったまちづくりの展開を期待したいですね。

### 岡田区長との一問一答



#### 青葉区の印象は？

「私は港北区民で青葉区は生活エリアです。まちも緑地や自然環境がマッチした区だと思っていましたしここに来てさらに好きになりました。」



#### 青葉区でやりたい仕事は？

「最大の資源であり、最良のパートナーはまちに住む人たち。住む人たちが、自分のまちをどのように愛し、まちづくりのために知恵をどう出せるのか、具体的な動きへと働きかける仕事をやりたいと思います。」

「懇談を終えて」 私たち区民会議が2年間かけてまとめた提案書「すべての世代が住み続けたいまち 青葉」を区長はじめ出席の皆さんは事前にしっかりと読んでくださり、丁寧なご意見を聞かせていただきました。非常に有意義な懇談会でした。 提案書全文は青葉区民会議のホームページでご覧ください。